

## 令和元年度第2回さぬき市子ども・子育て会議 会議要旨

- 1 開催日時 令和元年11月21日(木) 15時～16時30分
- 2 場 所 さぬき市寒川庁舎 多目的ホール
- 3 出席者
  - [委 員] 佐竹委員(会長)、杉浦委員(副会長)、三谷委員、白井委員、谷澤委員、藤田委員、鶴身委員、山本委員、梅垣委員、松下委員、植田委員、山下委員 (欠席2名)
  - [事務局] 間島、白井、多田、富田、石原、河本、池下、山本(株)ジェイエムシー2名
  - [傍 聴] 1名
- 4 議 題 (1) 第2期さぬき市子ども・子育て支援計画(素案)について  
(2) その他

5 会議の内容は次のとおりである。

(事務局)	令和元年度第2回さぬき市子ども・子育て会議を開会いたします。初めに健康福祉部長から委員の皆さまに委嘱状の交付をいたします。 <b>【委嘱状交付】</b> 委員の皆さま、よろしくお願いいたします。次に、開会に当たりまして健康福祉部長からごあいさつを申し上げます。
(部長)	失礼いたします。皆さん、こんにちは。10月も下旬に入りまして、朝晩の冷え込みも日増しに強まってきて、各地の紅葉も見ごろとなっておりますけれども、本日はご多忙のところ、ご出席をいただきありがとうございます。先ほど委嘱状をお渡しさせていただきましたが、子ども・子育て会議の委員の任期が2年間ということで、このたび改選となり、公私ともに大変お忙しい中、委員をお引き受けいただきまして、厚くお礼を申し上げます。今回は再任の方が9名、新任の方が5名ということで14名の委員の皆さま方におかれましては、この2年間の任期中どうぞよろしくお願いいたします。 さて、この子ども・子育て会議は子ども・子育て支援法の規定に基づき市の条例により設置された機関でありまして、市が教育・保育施設などの利用定員を定めたり、今回議題となっております子ども・子育て支援計画の策定や変更をする場合に意見を聞くほか、子ども・子育て支援に関する施策の総合的、計画的な推進や、その実施状況について調査、審議することとされているところでございます。本日はあらかじめ素案をお送りさせていただいてお

<p>(事務局)</p>	<p>りますけれども、来年度から令和6年度までの5年間は計画期間となります第2期のさぬき市子ども・子育て支援計画につきまして、昨年実施しましたアンケート調査の結果も踏まえ、また、この会議での各分野からの専門的なご意見をいただきながら実情に沿った実効性のある計画を策定したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>本日、新しい任期の最初の会議でございますので、皆さま方から一言ずつ簡単に結構ですので、自己紹介いただければと思います。</p> <p><b>【自己紹介】</b></p> <p>本日の会議でございますが、委員14名中12名の方のご出席をいただいております。本日の会議が成立しておりますことをご報告いたします。また、本日の会議は公開としており、傍聴の方お一人にお入りいただいております。</p> <p>次に、新しい委員さんも入っておりますので、この子ども・子育て会議につきまして、事務局のほうから簡単にご説明のほうをさせていただきます。</p> <p>さぬき市子ども・子育て会議は、子ども・子育て支援法の第77条第1項の規定に基づいて設置されております。子ども・子育て支援事業計画の策定や見直しを始め、さぬき市における子ども・子育て支援に関する施策を総合的、計画的に進めるために必要な事項等を審議する機関であります。会議の組織や委員の任期等につきましては、さぬき市子ども・子育て会議条例に定められております。審議をするに当たっては地域の子ども及び子育て家庭の実情を踏まえながら、皆さんのご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして、会長、副会長の選任についてお諮りしたいと思います。会長、副会長の選任につきましては、条例の規定によりまして委員の互選で定めることになっております。委員の皆さま方からのご意見があればお願いをいたします。ないようでしたら、前回からの引き続きということで、会長、副会長にお願いできればというふうに思いますけれども、よろしければ拍手のほうをお願いいたします。</p> <p><b>【拍手あり】</b></p> <p>ありがとうございました。それでは、会長、副会長それぞれ席を移動していただいて、一言ごあいさつをいただければというふうに思います。よろしくようお願いいたします。</p>
<p>(会長)</p>	<p>かなり高齢になってきておるんですけれども、皆さま方からしっかりご意見をいただきまして会を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>

(副会長)	<p>第1期子育て支援計画から早5年経ったのかなということで感じておりますが、いろんな意味で進化していると思います。幼児に関わる事故、そして虐待というものが悲惨と思うぐらい増えています。皆さんのお知恵を借りて、事業者としましていかに防ぐかということを皆さんで協力し合って進めてまいりたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございました。それでは議事に移りたいと思いますので、ここからの進行につきましては会長のほうによろしくお願ひいたします。</p>
(会長)	<p>第1議題としましては第2期のさぬき市子ども・子育て支援計画についてを取り上げたいと思います。まず事務局のほうからご説明をお願ひしたいと思ひます。</p>
(事務局)	<p>簡単に説明をさせていただきます。第1章、計画の概要をご覧ください。本計画は子ども・子育て支援事業計画と次世代育成支援行動計画及び子どもの貧困対策推進計画を包含するものであります。作成に当たっては、子どもの人口推計や昨年12月に実施しました子ども・子育て支援に関するアンケート調査の結果を策定の基礎資料としております。30ページまではアンケート調査の結果と分析を記載しています。</p> <p>34ページの第3章をお開きください。本計画の基本理念は現行計画の「ゆるぎたるぎで みんなで子育て のびのび育て さぬきっ子」を継承し、5つの基本目標を掲げて、子ども・子育て支援策を展開することになりました。この5つの基本目標は現行計画の基本目標と第2期さぬき市総合計画の主要施策を融合させた目標としました。この5つの基本目標を達成するために18の施策を推進内容とし、37ページ以降の第4章では各施策の具体的な取り組み内容等を記載しています。</p> <p>51ページをご覧ください。本計画策定に当たり、前回計画策定以降に子どもの貧困対策計画の策定が市に対して努力義務となったことから、本計画が子どもの貧困対策推進計画を包含するため、住民税課税状況別にアンケート調査を分析し、第4章、配慮が必要な子どもや家庭への支援として、子どもの貧困対策の推進を記載いたしました。</p> <p>56ページ以降、第5章は教育・保育施設等の量の見込みと確保方策及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策となっています。</p> <p>61ページから63ページにかけて1号認定、2号認定、3号認定、それぞれの量の見込みと確保方策を記載していますが、現在さぬき市には公立、私立合わせて保育所が6施設、幼稚園が7施設、認定こども園が5施設あり、令和3年度に私立保育園1施設の開園予定があり、2号、3号認定の受け皿の拡大が図られる見込みとなっています。</p>

	<p>放課後児童クラブにつきましては、平成27年度から小学4年生までの受け入れを実施していますが、5年生、6年生の受け入れについては実施場所の確保等が課題となっており、令和3年度以降、段階的な拡充をしていく方針です。また、計画策定の留意点として、放課後児童クラブについては学年ごとの量の見込みを算出をすること、外国につながる幼児への支援、配慮について記載すること、幼児教育・保育等の質の確保及び向上について記載をすることなどがあり、記載はしておりますが内容や文言などについて、皆さんのご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上です。</p>
(会長)	<p>それでは、お手元でございます「さぬき市子ども・子育て支援計画」、事前にお届けいただいておりますので、目を通していただいていると思っておりますが、これにつきましてご意見がありましたら、あるいはご質問がございましたらお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。</p>
(事務局)	<p>いろいろご指摘とかご意見をいただきたいのですが、例えば、ここはちょっと分かりにくいので説明してほしいとかいうことでも構いませんので、何からでもご発言いただければと思います。</p>
(会長)	<p>34ページですが、ゆるぎたるぎとはどうとらえたらいいですか。</p>
(事務局)	<p>基本理念で「ゆるぎたるぎで みんなで子育て のびのび育て さぬきっ子」ということで、方言でゆるぎたるぎということを使っておりますが、これは従前の次世代育成の推進計画の辺りから、この基本理念を受け継いできているような形で、今回この部分も見直しをしたほうがいいのか、どうなのかということもちょっと検討はしたんですけども、変えるのであれば何がしかのプロセスを踏まないと変えにくいなということで継承する形でやっていっていいのではないかとこのころに落ち着いたものでございます。</p>
(会長)	<p>私、高松なものですから、あんまり聞かないですけど、こちらのほうでよく使われてるんですか。内容的には何かゆったりと過ごす時間がうんぬんという説明があるんですけども。</p>
(事務局)	<p>基本理念について、課員に募集をしてみたりとか、他市の状況を見たりとか、いろいろ努力はしたんです。それとか、ジェイエムシーさんをお願いしたりとか。ただ、今までの経緯の中で、1期、それとその前の次世代の基本理念がこれで、調べましたら、この「ゆるぎたるぎでみんなで子育て」という中に、子どもの利益の最優先と主体的な育ちを考える、支えるとか、ゆった</p>

	<p>りとした気持ちで子育てができる環境づくり、それから地域全体で支える環境づくり、それをひっくるめて方言も入ったのが、この教育理念ということが分かったので、じゃあこの方針は変えないほうがいいんじゃないかということで、これにはしたんです。ただ、分かりにくいというのもありますので、この場で委員さんの意見もぜひ聞きたいことではあったんです。なので、ご意見いただけたらと思います。</p>
(会長)	<p>はい、ゆるぎたるぎというのは何となく分かりましたけど。そういう言葉で象徴的に何かしたいということなんですね。どなたからでも結構ですが、お気付きのことがありましたらお願いしたいと思います。</p>
(副会長)	<p>61、62に令和3年度に私立保育園の新設計画があるということで話を聞いておりますが、これは保育園ですか、こども園ですか。</p>
(事務局)	<p>今のところ、保育園の予定です。</p>
(副会長)	<p>経営母体はどういったものですか。</p>
(事務局)	<p>経営母体については、今現在、法人格を有するように申請中です。これから法人として運営をされる予定です。</p>
(副会長)	<p>個人の方がされるのですか。</p>
(事務局)	<p>はい。全く新規で始められる予定です。</p>
(副会長)	<p>近隣の保育所、幼稚園に影響があることはありませんか。過去、保育所の場合であれば2キロ以内にはできないという縛りがあったと思うんですけど、これはもう現在はなくなってるのですか。</p>
(事務局)	<p>一応、建設の予定地なんですけども、旧の志度地区になりまして、志度中学校の南にセブンイレブン、コンビニがあると思うんですが、それからちょうど東へ行きますと末に抜ける道の手前に線路があると思うんですが、その辺りに計画予定でして、一応、定員としては60名定員を考えていると。と申しますのも、志度地区につきましては今、志度保育所のほうが定員110名に対して125名受け入れしておると、よしいけこども園さんにも無理を言って定数をオーバーした形をお願いしておりますので、これを建てることによって分散するのかなという考えであります。</p>

<p>(会長)</p>	<p>9ページ、女性の就業率というのがあるんですけども、平成22年から27年にかけてM字カーブが解消されつつあるということなんですけど、27年以降、あるいは将来に向けてこういう予想がされるのでしょうか。Mカーブがさらに解消されるだろうということでしょうか。</p>
<p>(JMC)</p>	<p>このM字カーブが今後解消されるかどうかという見通しはちょっともう、実際なってみないと分からないというところなんですけれども、ただ、国の施策として女性の就業率を上げる、80%にもっていくという動きをしておりますので、さらに就業率は上がってくるものと思われまして。あとはアンケートの結果でも10ページをご覧くださいますと、前回の調査結果と今回の調査結果と比較しておりますけれども、こちらにつきましてもフルタイムでの就労というのは約10ポイントほど上昇してきておりますので、確実に就業率は上がってきていると。どこかでももちろん頭打ちはあると思われまして、上がってくるものと思われまして。</p>
<p>(会長)</p>	<p>分かりました。</p>
<p>(委員)</p>	<p>第2期ということで、第1期のときのアンケート調査の状況と今回、時代が流れて今回のアンケート調査の結果というのは多分、大分違ってきていると思うので、できたら今回のアンケート調査の中で従来とは違う、こういうものをやっていくんだという、多分、これを読み切ったら分かると思うんですけど、ちょっと読み切っていない関係上、そこら辺り、過去の比較というか、こういった目玉のさぬき市がやっていくという計画というようなことを教えていただけたらと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>全般的な話からいいますと、やはり従来からの計画を踏襲していきますので、それをさらに充実、深化させていくというのが大半を占めているというふうに考えております。前回といろいろ違いますところという、特に子どもの貧困の関係で対策を計画の中に盛り込んでいくというようなことがあります。前回の計画を立てておりますので、年齢条件といいますか、子どもの人口の減少がかなり進んでいるというようなことが状況としてはあります。さらに市のほうでもいろいろ施設とかの統廃合なり、子ども・子育て関係の事業の幅広くなってきた部分があって、大きく変わっているのは、例えば施設関係でいいますと、31ページ、32ページを見ていただければ、保育所、幼稚園、認定こども園のそれぞれの状況を書かれておりますけれども、こちらを見ていただきますと、前回のとき5年前には、その当時まだこども園は実際にはなくてゼロ施設だったものが、今回5施設というふうに増えてきております。そのうちの3つにつきましては、民間の保育所さんが認定こども園</p>

	<p>さんに移行したということと、一番上にある津田こども園については津田地区の幼稚園と保育所、それぞれ4つの施設を統合して津田こども園ができたということと、一番下の長尾学舎さんにつきましては今年度春に新設されたということとでございます。それに伴いまして、1番の保育所のほうは5年前に12施設あったものが半数の6施設に変わってきております。それから幼稚園についても10施設が7施設というふうな形になってきております。定員につきましては、それぞれ子どもの数とか、そういったものと合わせて推移はしてきております。</p> <p>それと、施設としましては児童館と放課後児童クラブにつきましても、児童館につきましては現在も5園ですけれども、それぞれ小学校の定員等に合わせて小学校隣接の形に変わっていったりとか、津田地区につきましては今年9月から児童館のほうを離れて小学校の空き教室を利用させていただいて、そちらのほうで子どもたちが移動せずに児童クラブのほうに移るといったようなことが、初めて学校の中で了解をいただいて進めさせていただくような形になっております。児童クラブの施設面での拡充というのは、なかなか思うようには進んでないんですけれども、可能な範囲で学校等にもご協力をいただきまして、なるべく子どもたちが安全、安心に過ごせるような形で整備を進めていきたいというふうに考えております。</p>
(事務局)	<p>認定こども園が開園に伴い地域子育て支援センターも増えましたので、未就園の親子が楽しく過ごせる場も拡充しております。また、子育て支援ガイド・フェイスブック・アプリ等導入しまして、子育て支援サービスの情報配信についても積極的に推進しております。</p> <p>また、寒川庁舎ができて福祉事務所が移ってきた関係で、それとタイミングを合わせて今、子育て世代包括支援センターを2階のフロアに設置しております。これは子育てに関係するような相談事とか情報提供等をワンストップでできるようにしようということで取り組んでいるものでございます。それから、先ほども指摘がありましたように、子どもの児童虐待、そういったものに迅速に対応していく、それから危険というか、そういったものを見逃さないようにやっていくという部分で子ども家庭総合支援拠点というものもあわせて設置をしております。なるべく早期に気になるご家庭とか、そういうところに支援が届くようにというふうな形で、対外的にこんなことやってますよと、なかなかPRしづらい部分ではあるんですけれども、そういうところの充実も図っていきたいというふうに考えております。</p>
(委員)	<p>54ページの5番の安心して暮らすことのできる基盤の整備で、児童向け公園の整備について、ちよろっと書かれてるんですけども、もう何十年も前か</p>

	<p>らずっと話になってると思うんですが、今ある公園の整備のみでしょうか、それとも新規で、ないところにもつくっていただけるところまで含みを置いてるのでしょうか。先ほど志度に保育園、新設予定ということなんですが、あの辺り、土地が空いてると思うです。それとは切り離しですけども、あの辺りに公園があったら子どもたちが遊べるかなというのは思いました。</p>
(事務局)	<p>児童向け公園の整備、やはりこうしたアンケートなりをとりますと、一番要望が多いのが公園とか子どもが安全に遊べる場所という要望がやはりどうしても常に出てきていて、市としてもそれは大きな課題というふうには捉えているところです。ただ、なかなか具体的にこの計画を、公園の整備を進めていくとなると新設のものについてはなかなか難しいという部分がありますので、児童向け公園というのは例えば住宅開発とか、そういったもの進んでいるときにあわせて児童向けの公園をつくっていくような開発をやっていたりとか、そういった部分が膨らませて整備を進めていくというようなところでどうしても担当課としても、都市整備課が担当課になるんですけども、公園自体の整備については。そういうような計画の立て方にならざるを得ないということでございます。ただ、子育て支援課が児童館の担当をしておりますけど、児童館の園庭の遊具の整備とか、そういったものもやっておりますし、また教育委員会のほうでも公民館とかの整備計画もございますので、そういった施設の整備にあわせて付随的に公園的なものがつくれたらというようなところも、それぞれ庁内で連携をとりながら検討をしていくというような回答になろうかと思えます。</p>
(事務局)	<p>補足ですけど、新しく4月から津田こども園が開園しまして、園庭の東側に一応、区画を区切って、こども園が開いてるときはちょっとそこは一般の方は入れないんですけども、一応、共有で外からも遊べると。こども園が開いてないときも中に入って遊べるという。遊具は築山とブランコ、その程度なんですけれども、そういった公園も少しずつ整備していくような方向ではあるんですけど。従来から言ってるのはポケットパークみたいなのは地元で土地を提供してもらって、そして地元の方がそこを管理してくれるような公園がもしできるのであれば、そういったところを増やしていく、そういった地元から提案があれば増やしていきたいということは以前から言ってるんですけど、市として整備する公園ということと協力を得て運営していく公園と、2パターン、いろいろ考えていったらいいんじゃないかなと思います。</p>
(委員)	<p>児童館の話も出たので、先ほどの土地に児童館があったら便利かなと。津田には児童館は今ありますか、長尾はあったと思うんですけど。</p>



(事務局)	津田は津田地区に津田町東部児童館があります。
(委員)	大川と寒川にはありますか。
(事務局)	大川と寒川は今、小学校に隣接する形で旧のランチルームとかを改修して児童館と児童クラブの運営をしています。
(委員)	<p>先ほど、津田こども園の公園の話がでたので、ちょうど今、言われたようにお休みの日に外から入れるようになってるんです。確かにブランコと築山とトンネルがあるぐらいの公園なんですけども、家族連れて遊んでいます。私自身も遊びに行って、そこで保護者同士、話ができたりとか、コミュニケーションがとれたりもするので、何かしら、豪華な遊具がなくてもちょっとそういう広場があったら楽しめるかなというふうな思いを持っています。</p> <p>計画の中でちょっと教えていただきたいことがあるんですけども、こども食堂の利用意向についてというアンケートが26ページにあったと思うんです。そこで、子ども食堂について、「わからない」という意見がほぼほぼ大半を占めたという、認知度が低いのかなという気はしています。それにあわせて、48ページからの配慮が必要な子どもや家庭への支援というところの中で、子ども食堂というのが、私がちょっと勉強不足で、そこに入ってくるものになるのか、ちょっとその辺り分からないんですけども、実際、さぬき市において、こども食堂というのはどのぐらい広まっているのかなというのを思いました。</p>
(事務局)	<p>こども食堂につきましては、やはりアンケートでも「わからない」というご意見が多いのは確かに。実際に目にするとか利用するという機会がやはり少ないのかなと。テレビとかで言葉は分かって知っているけれども、実際どういものが分かりにくいというようなことがあるのかなと思います。現実には子ども食堂も県内では30カ所、40カ所開設されておりますけれども、運営の主体とかやり方、回数とか、そういったものもいろいろでして、こういうものが子ども食堂というのがあまりはっきりお示しできるようなものにはなっていないというのが現実だと思います。さぬき市におきましても今、子ども食堂という登録でやられるのはNPO法人さんが鴨部地区で1カ所開設されております。今は多分、月に1回ぐらいに減ってるのかなと思います。毎月、最初は2回やられてたと思うんですけど、土曜日に開設してやられてるというのがあります。あと、子ども食堂という形ではないんですけども、社会福祉法人さんのほうで、わんぱくサポートというような形で毎週土曜日に昼食と午前中の遊びといますか、そういったものを法人さんが運営されている介護施設でやられるところもあります。個人的な活動</p>

	<p>としてご自宅等を利用して寺子屋的にやられている方もいますし。単に子ども食堂と言ってしまうと、今、さぬき市では1カ所というような形になってしまうんですが、いろいろな取り組みが今あるということは1つはあります。それと、子ども食堂イコール貧困家庭の子どもさんが集まるところというふうな見方をされてもあまりよろしくないということで、子どもの居場所づくりの一環の中でさぬき市としても進めていきたいなというふうに考えております。</p> <p>それで、カテゴリーとしては入れるとしたら、(4)の子どもの貧困対策の推進のところに入ってこようかとは思いますが、ここも今ちょっと具体的にここまで踏み込んで入れるところまではいけてないということです。市としてどういう支援ができるかという部分が、まだなかなか難しいところがありますので、高松市さんとか丸亀市さんとかだと、子ども食堂を始められる団体さん向けに補助金制度をやってられるので、市としてもそれを立ち上げてということも検討はしたんですが、今ある既存の地域福祉活動の補助金がありますので、額は少ないんですけども、例えば公共施設を借りたりするときの使用料とか、そういったもので賄える部分で補助ができればというふうに考えております。</p> <p>(会長) 関連して、そういう子ども食堂、あるいは子どもの居場所、これについて何かどこからそういうニーズが、要望があるとかいうような動きはないでしょうか。</p> <p>(事務局) (会長) 個別にそういうような声をお聞きすることはないですね。</p> <p>私からもう1ついいですか。今、見てましたもので28ページのところで習い事についてというのがありますが、非課税世帯と課税世帯ということで比較して、どうも統計的には傾向がありそうだという結果が出てますが。つまりグラフを見ているんですが、状況で、その他の習い事、書道、ピアノ、ダンス、こういうことについて非課税世帯と非課税でない世帯との関係で、かなり差が出ていると。それから習い事をしていないというのを見ると、非課税世帯のほうの比率が多くて、非課税世帯ではないところは少ない、そういう傾向があるんですけども、何かこのことについて何とかしてくれないか、そういう動きは別にないでしょうか。</p> <p>(事務局) この表を見ていただきましたら、小5と中2のアンケートでさせていただいております、2年ほど前に県の子どもの未来支援のアンケートがありまして、そのときも同じようなことを聞いております。それは貧困家庭の場合にどういったところが課税世帯と、貧困による差があるのか、ないのかというのを調べてるんですけども、そのときも同じような結果ではあるんですけど</p>
--	--

	<p>も、大きな開きはないんですけれども、学習塾とかスポーツクラブであると、ほぼ同じような結果になる。ただ、その他とか、習い事をしていないという部分では多少開きがあるのかなというような話です。やはり皆さん力を入れられるところは同じなんですけども、経済的な理由とか、そういったところで若干の差が開く傾向があるというようなことです。小学校5年生と中学校2年生のそれぞれ、この表にはないんですけれども、見ましてもその辺りの差はやはりあるということがあるので、経済的な部分には着目して、いろいろな制度に反映させていくというような方向性を持って取り組んでいきたいというふうには考えております。</p>
(会長)	<p>それと、次のページになるんですが、進学ですね。これも高等学校進学については非課税世帯が高くて、大学または大学院の高等教育になりますと、かなりの差があって、非課税世帯は低いと。もちろん予想はされることなんですけど、その辺りのことについて、何かこれでしてほしいとか、例えば大学へ行きやすいように奨学金制度をつくってほしいとか、その辺りの動きというのはどうなんでしょうか。</p>
(事務局)	<p>非課税世帯だからとかいうのはないんですけど、ひとり親対策としては奨学金制度、無利子とか幾つか種類がありまして、ただ、選考がありまして全員が全員、希望どおりではありません。そういった相談というのは、やっぱり年中通してありまして、専門学校へ行かせたい、大学に行かせたい、奨学金の申し込みとしたら相談はかなり多いです。そのときに母子自立支援員が丁寧に相談に乗ってまして、一緒に申請するお手伝いをしております。ただ、それは全く返さなくていい給付型というのをごく限られてますので、将来的に子どもさんが返していかなければならないような奨学金を借りる方も多いんですが、そういった支援はしております。それと県の枠がありまして、学習塾のほうなんですけど、年間通して数人ではありますけど、そういう支援を受けるというのもあります。</p>
(会長)	<p>ありがとうございます。他にございませんか。</p>
(委員)	<p>アンケート結果を見て、第1期のアンケートがちょっと僕も前回のときにさせてもらって、今日はちょっとすいません、あまり覚えていないもので、今回のアンケート結果を見させてもらって、単純に児童施設のほうの話でさせてもらおうと、あまり明るい未来はないなというのが。なぜかという、もちろん人口の減少はなかなか食い止めることはなかなかできないのかなと思うんですが、今のお話を聞いてると、さぬき市としても合併、合併で、高校も合併という話も出たりとか、どうしても人口が減少していったら、そう</p>

	<p>いうふうになるのは致し方ないかなとは思いますが、でもここに30ページですかね、さぬき市は子育てしやすいまちだと思うかというところで、半分の方が「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」で、小中になると半分強の方がどちらもそういうふうに思われているというのが、僕も保護者の方とお話することが多いので、現状なのかなと。人口減少がどうしても進むのは仕方ないかもしれないんですけど、その辺りの市として減少してるけど、じゃあというところの、例えば高齢者の方が増えるけど、またそこでできることがあるのかなと思うんですが、その辺は市として、ちょっと具体的に言えてないんですけど、このアンケートはすごく僕から見てもちょっと悲しい。それが現状なんですけど、その現状を踏まえて市としてお考えがもしあるんでしたら教えていただければいいかなと思ってます。私のいる志度地区はまだ、どちらかといったら子どもがいるほうだと思うんですけど、その志度地区でもこのデータを見ていくと減っていくのは間違いないです。他の地区だったらもっと加速するかなと思ってます。そういう意味では、未来の明るいよというさぬき市のお考えがあれば教えていただければと思います。</p>
(事務局)	<p>このアンケートをとったときに、子育てしやすくない、要は「あまりそう思わない」とか、「そう思わない」、どういうところが、そう思わないかというところまで踏み込んで聞けてたら、それをまた施策に盛り込んだりとか、どういうことがあれば子育てしやすいと思いますかというような、アンケートの項目が多いので、なかなか。それだけのアンケートですといろいろ踏み込んだ質問ができるのかもわからないんですけど、いろいろずっと長い中の1つなので、なかなか踏み込んだところができてないので、本当はそういった生の声といいますか、そういった声が聞こえてきたらいいなと思うんですけど、そういう方法を考えたり、具体的にこうしてほしいというような、さっき言ったように公園のこともあるんですけど、何がさぬき市、他の市町と比べて何が足りてないのか。逆に、ここは素晴らしいというところは伸ばしていったらいいと思うし、足りないところは今後いろいろな、財政事情のこともあるんですけど、そこを不足しているところを足していったらいいかなというふうには思うんですけど、具体的にもし何かご意見があったら、教えてもらったら。ご意見をお願いします。</p>
(委員)	<p>さぬき市が保護者の子育てしている方が住みよいまちという意見が増えてたら、人口が逆に移住者とか、そういう方も入ってこられるのかなとは思ったりはしてます。僕も先ほど植田さんが言われたような公園とか、そういうやっぱりいろんな意味でお金がかかることは、なかなか難しい面はあるんですけど、既存の施設を使いながら、なるべくお金がかからない、僕も以前</p>

	<p>にいろいろと既存の施設を使いたいなどといっても、いろんな制約があったりするので、既存の施設でもその辺のハードルが少し民間の方でも気軽に借りれたり、今使っていないところもじゃあいいよという形で、その辺は課を超えたそういうハードルが低くなってくれたら、いろんな意味でお金をかけないでいけることもあるのかなとは思っています。すいません、ちょっと具体的に僕も今すぐは、また僕も勉強はしないといけないんですけど、この場にたくさんの方がおられるので、そういう具体案とかが会の議論として出てきたら、言った意味というのはあるのかなと思っておりますのでよろしくお願ひします。ありがとうございました。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>子育て支援センターを利用している保護者の方はすごく喜ばれて、常に支援センターの先生に相談もでき、それから家庭児童相談員さんとか保健師さんのアドバイスも受けて、すごく充実しているみたいな気がしております。そういった状況を生であまりアピールできなかったという弱さがありまして、今回アプリとかフェイスブックでどんどん紹介していきたいなと思ったときに、あまり顔写真とかイラストとか、そこら辺が個人情報とか制御がある、その情報発信の難しさというのを感じながら、でも許可もとりながら楽しいことはどんどん市民の方に伝えていきたいなという気持ちはすごくあるんです。今始まったばかりなので、まだ不十分なんですけど、そこには実際、戸育てしている世代の方の楽しさをもっともっとアピールしていこうとは思っています。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今回、アンケートの前回との比較なんですけれども、ちょっと実は聞き方を若干変えておりますので、単純比較はできない状況ですが、前回5年前のときは、戸育てしやすいまちだと思うかという同じ設問ですけど、回答の仕方としては、しやすいまちだと「思う」が35.2%、「思わない」が15.7%ということで、思うか、思わないかと聞くと思うほうが倍ぐらい多いと。ただ、「どちらともいえない」、「わからない」がそれぞれ36%とか、9%ありますので、やはり判断材料があまりないので、どちらともいえないと選ばれる方がやはり多いのかなと思います。今回の聞き方だと、どちらかといえば、というふうな形も含めていってしますので、なかなか。ただ、やはり同じような傾向なのかなと。それぞれ就学前から小学校2年生までいますが、回答は傾向もそんなに大きな差がないですね。やはり行政に対するもっと頑張れというメッセージなのかなというふうには思います。前回のときには、子育てしやすいまちだと思わない理由を選んでいただいておりますので、その結果からいきますと、やはり「公園や児童館など子どもの遊び場が少ない」というのが79.5%で断トツで一番多いです。その次が「交通機関が不便」というのが42.7%、あとは1割から3割ぐらいの形ですね。子育て環境の充実のために必要な支援策で前回一番多かったのは「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増や</p>

<p>(委員)</p>	<p>す」というのが64.3%で一番、これも断トツで多かったということになっております。</p> <p>小学校の代表で来てますのでその辺りのことを。先ほども子どもたちが放課後遊べるとか、その辺りで、私、今の学校へ行ってびっくりして、普通、小学校、中学校ともに終わりが終わったらもうすぐ出なさいというのが今現在のどこの学校も方針なんですよ。放課後残ってけがしたら面倒見ないといけないしといったらどこの学校も。ところがうちの学校は放課後残ってもいいという昔ながらなので、みんな遊んでるんですね。子どもたちというのはやっぱり遊び場はほしいというよりは、今、学校も統合したりすると子どもが点在してるんでね。仲間をつくってれば、そこで遊ぶ。ところがばらばらに行ってしまうと、そこにまた集まるのも大変です。学校だったら遊びやすいかなというので、多分、遊びたい。4時には帰るんでその後30分足らずです。でもやっぱりみんな一生懸命に、昔、聞いたなとインサとか何か、そういう、何十年ぶりに聞いた。こんなのを小学校の6年生の女の子がしてる。びっくりしてね。やっぱり子どもたちは遊びたいんで、安全であって、しかも安心できるそういう場所で、しかも仲間がいると。そういう場所が提供していただけたら本当はやっぱりいいかなという感じがしました。今、子どもが減少してるから、これは仕方ないところなんですけど、そういう場所があれば親も安心するかなという感じがします。</p> <p>それから、放課後児童クラブについてちょっとお聞きしたいんですけど。資料の17ページぐらい、放課後児童クラブの最初に図があって、小学校就学後の放課後の過ごし方について、これは何で1年から3年と、4年から6年に分けてるんですかね。ちょっと分からなくて。4年までが残れますね。4～6になると児童クラブを利用しているのがあるというふうになってるけど、5、6年生は基本的にできないようになってますよね。できたら、1、2、3、4、5、6分けるか、1～4、5、6とすると、じゃあ高学年の5、6年生は何してるかがよく分かるんじゃないかなと思うので、この分け方がちょっと意味が分からないところがあって。要するに高学年の4～6の中で児童クラブは27.6%になってますけど、これは4年生だけの話だけだから。これを除いていくと6年生が何をしてるかが分かるという感じで、それがちょっと分からなかったところです。</p> <p>それから、19ページのところ③に小学生の放課後児童クラブの利用希望というのがあって、利用したいというのが8.6ポイント増えてると。これは何となく分かる。その下側に土曜日、日曜、祝日、それから夏休み、冬休みというふうに書いて、これは前回の分のデータを見たら全部減ってるんですよ。利用する必要がないというふうに。保護者が土日祝日等はなるべく家にいるような勤務体制かなにか分かりませんが、そうなったから、これが減</p>
-------------	---

(事務局)	<p>ったのかなと。土曜日なんて前回49.7%だったのかな。それが62.4だから12.7%も増えているという、この辺りが何でかなと。土曜日、日曜日まで行くとお金が必要なんですよね。その辺りもあって、仕方なくこれを休むようにしていったのかという、その背景がちょっと分からないんですけど、その辺りの考察もできたらいいかなという感じがしました。</p> <p>最後に虐待の分があったと思います。50ページに。教員とかその辺り、虐待防止、その辺りは十分に研修とかしている、それは分かってる。実際、そういうような家庭、その他について、こんなのは駄目、そんなのは分かるんですけど、何か支援が、行政のほうから。うちもあつたりしたんですけども、就学援助のシートをどうですかと前回渡して、それから2カ月ほど経って、どうなってますかといったら、まだというので、シートありますかといったら、ない。また渡した、新しいのを。それからまた何にちか経って、まだ。その辺りのこれはこうやって書いたらいいんですよとか、当然困ってるんですね。でもなかなか就学援助も受けられないような状況になって。その辺りの、かゆいところを何とかとは言いませんけども、そういう必要な支援を行政のほうで、ここはこういう書き方したらいい、そこの辺り。これは保護者ができるんだろうじゃなくて、できないので困ってるので、その辺りをしていただけたら、学校としても助かるし、いいのかなという感じがします。</p> <p>ありがとうございました。大きく3点ほどご質問いただきまして、まず最初の17ページのアンケート調査の結果につきましては、これは就学前というふうに①の後ろに四角囲みで出ておりますけれども、就学前の5歳児の保護者にお聞きしたアンケートです。実際に次の年に小学校に上がったときに、小学校に入ったらその後、放課後どういうふうに過ごしたいという希望があるのかなということをお聞きしています。1年生から3年生と4年生から6年生の2段階でしか分かれてないのは、今ご指摘をいただいて、そういえばそうかなというのは感じました。ただ、前回もお聞きしているのは、要するに低学年と高学年で、前回のときはまだ、後の質問とも関係しますけれども、3年生までの受け入れしかしてなかったもので、こういう分け方で、高学年になっても利用したいという希望がどのくらいあるかなということをお聞きしているものです。</p> <p>小学校1年生から3年生というのは、これは実際に今、小学校の1年から3年で実際にお子さんたちが利用してるのかしてないのかをお聞きしたいのと、利用してないけれども今後利用したいという希望があるかどうかということで、②と③の比較が出ております。なので、利用したいという割合がちょっと伸びているような状況です。④の土日とかの希望については、これもこのときまだ前回の利用したいというのが利用する必要がないというのが大きくなっているというようなこと、現実に土曜日保育で今、造田児童館で実</p>
-------	--

	<p>際の利用が大体20人前後ぐらいの利用です。実際になかなか、そこまでの利用は必要ないかなというところが見えてきた部分もあって多分、こういうようなアンケート結果になってるのかなというふうに思います。</p> <p>それと児童虐待の関係ですけれども、ここにも書いておりますが、子ども家庭総合支援拠点というものが今できております。それと子育て世代の包括支援センター、そちらのほうは今、この寒川庁舎のほうで開設されておりますので、実際にいろいろな相談が以前に比べたらうちのほうに入ってくることも多くなっておりますし、また、うちを経由していろいろな関係のところにおつなぎするということもあります。就学援助のシートの書き方というのは個別の話で、そういうところも出てはくるのかなと思いますので、本当に支援が必要な、それこそ相談の中でも必要があれば対応のほうは随時できる部分はやっていけるようにしていると思いますので、学校のほうからでも、この家庭はこれこれこういうことでちょっともう少し入ってやってほしいんだということがあれば、おっしゃっていただければそれなりの対応がまたできていくのかなと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
(会長)	<p>他にございませんか。児童虐待に関しては保護者の孤立ですね。これがいろいろ新聞等を見ますと。そういう意味では、ここにあります支援員さんを置いて対応をするということですけども、もちろん行政としてはそういうことは重要なことなんですけども、周囲の親戚であるとか、近所であるとか、これのサポートというのはやっぱり大事じゃないかと思うんですけども、何かそういうことについて行政として支援なされていること何かありますか。</p>
(事務局)	<p>過去の虐待、すごく悲しい事件が多く発生しておりますが、やはり初期対応の遅れとか、そういったことがないように今、国も県も、県においては児童相談所のほうに対応しておりますけれども、やはり県も今年に入ってから特に介入する部分と支援する部分というのをもう切り離して取り組みのほうを始めてますので、市についてもその辺りの、同じように、要するに支援する人と介入していく人、それ虐待じゃないですかみたいな感じで介入していくのが同じ人が行くのでは、やはりちょっと差し障りがあるということで、今4名体制にしたのは、そういう側面もありまして、2人が主に虐待通報があったりしたときに家庭を訪問して状況をお聞きしてというようなことで、あとの2人のほうはその後の支援、必要は支援があれば関係機関につないでいくというような取り組みのほうを、そういう役割分担を持ちながら進めていくというふうなことを今、徐々にではありますけれども、そういう体制を整えていこうという形で進めております。</p> <p>それから、生活援助とか、そういった部分もやはりありまして、どうしても、それぞれのご家庭のニーズにもよるんですけども、養育がなかなか困</p>



	<p>難という方については支援者になるようなキーパーソンを探したりとか、うちのほうでも養育支援というのをやっていますので、養育支援の訪問委員さんをマッチングができるようであればマッチングをして、生活援助みたいなこともできるような形は整えております。ただやはり、あまり具体的なニーズというのはそんなに多くないので、今のところ養育支援訪問自体は年間に数十件、回数で数十件ですので、家庭の数でいうと多分10件もないぐらいのところでも少しずつお手伝いをしていくというような取り組みも始まっているところではあります。</p>
(会長)	他にございませんか。
(委員)	<p>2点ほど質問と意見とございます。1つ目が今の虐待に若干つながると思うんですけども、さぬき市は今、核家族が大分増えてきているかと思うんです。私自身も県外から越してきての核家族で子どもが小さいころはしんどい思いもしたんですけども、当時は結構、お母さん同士とか保護者同士の横つながりがとても濃い時代だったので、周りに助けていただいたり、近所のおせっかいなおばちゃんたちにすごく助けていただいた記憶があるんですが、今とても希薄な状態かと思うんです。個人情報うんぬんの絡みもあって。市のほうで訪問活動を継続で続けられているということと、幼児期は比較的サポート体制は整っているかと思うんですけども、小学校に入ったときに孤立した親子さん、若干見られるかなというのとあわせて子どもの数が減ることによって保護者の子どもに対する1対1は変わらないんですけども、団体における保護者の負担がすごく大きいという意見が保護者の方から上がってきて、ちょっと私が直接お話ししたのは小学校の保護者の方なんですけども、何せしんどいと、いろいろしんどいと。子どもを育てることとか、いろいろプラスアルファの役目がしんどいというふうにもおっしゃってました。結構、話を聞いてると、それは他の人に頼ってもいいんじゃないかなということも全部背負いこんで一生懸命な保護者の方が多いようなので、できることなら、もちろん地域のサポート体制の紹介とか、結構お手伝いした世代の方っておいでと思うんですよ。その方々にちょっと声掛けして地域の方に協力を仰ぐのが1つ改善策かなと思いました。私、中高生のボランティア団体のお手伝いをしてるんですけども、その中にも子どもと関わりたい、遊びたい子はいっぱいいますので、その辺りも声掛けで一緒に育てていけたらなとは思っています。</p> <p>2点目、ちょっとこれとは切り離したお話なんですけども、社協さんもちょうと絡んでくる話で、さぬき市のほうで病児保育は大抵あるんですけども、幼稚園未就園児たちの兄弟児のほう、私個人でお世話になったことあるんですが、例えば保育園の一時預かりとか、当時は社協さんのさんさん支援でお</p>

	世話になりました。下の子を出産するときに上の子の送り迎えをお願いしたり、父親が帰ってくるまでの間の預かりをお願いしてたんですけども、そういったものを社協さんは今まだファミサポで。
(事務局)	やっています。送迎とか。
(委員)	出産時とか介護とか、そういう理由でも大丈夫ですかね。上の兄弟の家族は。
(事務局)	そうですね、あります。
(委員)	市の一時保育、結構いっぱいかもしれないんですけど若干、緊急時のゆとり、受け入れ体制もあるんですかね。
(事務局)	一時預かり、3園、今実施してますので、まだ余裕があるとは聞いてます。ただ、緊急の受け入れのときに副会長さん、どんなでしょうか。緊急のときでも一時預かりも利用は可能でしょうか。
(副会長)	そういうケースはありますけどもね。そういうとき、例えば1人の保育士を付けてるわけですけど、何人いるかという問題があるんですね。ゼロ歳児であれば3人までとか、そういうような問題もありますし、安全の問題もありますし。私どもは子育て支援センターの職員とともに協力し合いながらやっていますので、まあ受け入れは人数的には多いほうじゃないかと思うんですけど、皆さんほとんどが各部屋に入ってる状況。といいますのは、一時預かり専門、恐らくは私どもだけ。というのは、採算が合わないんです、一時預かりは。皆さん各部屋で余裕があるところだけに入れるということなので、そのときの状況によると思います。それであれば、うちの場合はまだ入りやすいかなとは思いますがね。緊急の場合でも何とか受け入れるようにしています。
(委員)	ありがとうございました。
(事務局)	その前のご意見の話ですかね。核家族が相当増えてます。今回のアンケートにも出てますけれども、ほとんどのところが夫婦と子どもだけの家族というのが多い状況というのはよく見られるところでございます。かつては母親クラブとか、そういう活動も結構活発に児童館とかを中心にやっていますが、そういう組織も少なくなってきた、今はもうそれぞれが託児のボランティアとか読み聞かせのボランティアとか、幅広く活動は分かれてるんですけども地域性とか得意な分野に特化されたような形のボランティアさんが活

	<p>動されている。他にも子育てサロンとか、いろいろありますので、その辺りをうまく活用していただくために、うちのほうも子育て支援相談員を幼保のほうと、うちの窓口のほうで1名が一応、兼ねて座っておりますので、そういうところで利用者支援という形でいろいろなサービスの紹介とか、そういったことをできますので、その辺りはご相談いただいたらというふうに思います。あと、中高生のボランティアの方がいらっしゃるんだったら児童クラブとかにもぜひ遊びに来ていただければ助かります。</p>
(会長)	<p>他にございませんか。、帰ってからとか、あれ聞くんだったとか、何か意見が他にあるような場合に事務局のほうへ連絡していただいてよろしいですか。</p>
(事務局)	<p>はい、結構です。</p>
(会長)	<p>もし、言い残したことというようなことがありましたら、そういうふうにお願ひしたいと思います。一応、このぐらいで第1議題については終わらせていただきたいと思います。そうしましたら、あとはその他ですか。事務局でお願ひします。</p>
(事務局)	<p>計画の素案については、本日いただいた意見等を反映させて再度、文言の修正や内容等を精査したものを後日郵送させていただきますので、問題点等がありましたら、ご連絡をいただけたらと思います。その後、第2期さぬき市子ども・子育て支援計画を案として12月中旬から1月にかけてパブリックコメントを実施する予定です。パブリックコメントの結果を受けて、最終2月、もしくは3月に第3回子ども・子育て会議を開催させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。以上です。</p> <p>次回の会議を2月に、遅くても3月初めぐらいまでに開催し、この会を持ちまして策定にもっていきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
(会長)	<p>では、皆さん、もし遅くなる場合は3月かもわかりませんが、その辺りを心づもりをお願ひしたいと思います。他にございませんか、事務局のほう。よろしいですか。そうしましたら、先ほどお話が事務局のほうからもありましたけれども、今日出ましたご意見、ご質問、そういうものを参考にしまして最終的な計画書を作成するというので、パブリックコメントもありようですから、それもまた参考に、ぜひつくっていただきたいと思います。では、今日はこういうことで終わりにしたいと思います。どうもお疲れさまでございました。ありがとうございました。</p>

